

強度行動障害実践事例報告

他害 1

本人の状況

自閉性障害の診断があり、簡単な文章は理解できる。身体接触場面を何度も繰り返し、接触がエスカレートすることで叩く・引っかくなどの他害にいたる場合がある。

問題とされた行動

「職員の手を触る行動」

取り組み経過

・データ収集

本人の手さわり行動に対し、どんな場面で、触る前に何があり(A)、触った後どう対応し(B)、対応の結果どうなったのか(C)について記録をとることとした。記録の期間は 1 週間とし、手さわり行動があった際は、(図 1) の記録用紙に記載した。

Aさんの「手を触る行動」ABC分析記録	
日付： 月 日 ()	時間 : 記録者
支援の場面	
どんなとき	
本人の行動	
どう対応したか	
結果	

(図 1) A B C 分析の記録用紙

実施後は、(図 2) のシートに転記し、分析を行った。期間中は、それまで行われてきた対応を継続することとした。

このことから、本人が手を触ることが多い、紙コップを返却する場面について、対応を考えることとした。

・対応策

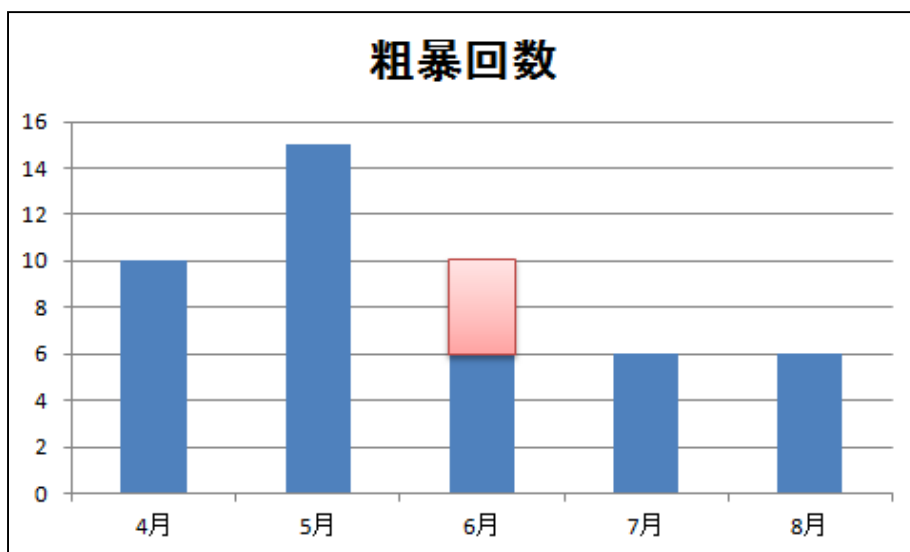
本人の服薬時、破いた紙コップを入れるためのフィニッシュボックスを用意し、受け渡しをしなくても良いようにした（図4）。本人にも、「紙コップは破いたらここに捨ててください。 月 日から始めます。」と書面に書いて伝えた。



（図4）職員向けの掲示文書

・取組結果

行動の変化は（図5）のとおり。



（図5）粗暴回数の変化

6月に上記の対応策を実施し、服薬場面の粗暴行動は4件(図5の赤い部分)見られたが、以降、コップを破く場面での粗暴や手さわりは見られていない。なお直後の4件については、ルーチンを大切にしており手順の変更を受け入れにくい本人の特性によるものと考えられる。

掲載日 平成28年3月2日

この文書の所管所属は中井やまゆり園です。